



Renaissance くるさき

No.48
2021.1

副都心黒崎開発推進会議

発行/副都心黒崎開発推進会議 広報委員会
事務局/北九州市八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ5F TEL/FAX093-642-1001

かのと うし

『辛丑』 今こそルネッサンス！ 新たなる成長へ

☆辛丑(かのと・うし)・・・2021年の干支。
干支は10種類の十干(じっかん)と12種類の十二支の組み合わせからなる。「辛丑」の意味は、辛いことが多いだけ、大きな希望が芽生える年になることを指し示している。

これまでの副都心黒崎 10年後の副都心？黒崎

～何を残し、何を加えるのか？～



日本総合研究所調査部主席研究員

もたに こうすけ

藻谷 浩介 氏 特別講演会

(2020年1月21日)



〈プロフィール〉山口県生まれの56歳。平成合併前3,200市町村のすべて、海外109ヶ国を自費で訪問し、地域特性を多面的に把握。地域振興、人口成熟問題、観光振興などに関し、精力的に研究・著作・講演を行う。2012年より現職。著書にデフレの正体、里山資本主義(KADOKAWA)、完本・しなやかな日本列島のつくりかた、観光立国の正体(以上、新潮社)など。近著に、世界まちかど地政学Next(文藝春秋)。

日本で一番空き家が多い県は？東京。東京の空き家率は11%。以前、65歳で親が亡くなっていた頃は、子どもが30代、ちょうど家が広くなるといい頃で、親の家を受け継ぐのにぴったりで、一つの家をぐるぐるまわしていた。最近、親が90歳で亡くなると子供は60代70代で、親の家はいらなくなり空き家になる。黒崎もマンションが増えていて、将来空き家が増えていくことが懸念される。今後、まちづくりで50年単位で生き残っていくのは、空き家をうまく埋めていくシステムがまわっているところになる。

世の中が変わっていく中で、400年後の日本や黒崎に残っている人工物はなんでしょう？400年後に残っているのは家、神社、飲食店、田んぼ、長崎街道松並木も残るでしょう。でも、マンションやビルや大型店は残らないのでは？人間は1ヶ月とか4～5年単位でものを考える、4～5年単位を繰り返していると未来になると思っているけど、そうではない。400年後に日本人は残っているのでしょうか？

日本の0～4歳児は、45年前に1001万人だったのが、去年には492万人と半減以下になっている。八幡西区の人口は、この5年でゆっくり減り続けている。0～14歳、15～64歳は5年で7%減。70年ぐらいで子どもがいなくなるペースで減っている。65歳以上はかなり増えていて12%増。75歳以上は18%5700人増えている。5900人の人口が減っていて、75歳以上が5700人増えている。景気が良くなったら黒崎が元に戻ると言っているのは、永遠にうまくいかない。新しく社会に出てくる人が減って、年配者が増え、時代は大きく変わったことを理解しないとイケない。

福岡市はどうかというと、65歳以上は18%、75歳以上は20%も増えており、高齢者が多い。こういう構造になっていることに対して、北九州は別原理を対抗でださないとイケない。つまり先に高齢化しているのが、高齢者は非常に暮らしやすいし、若者と協働しておもしろい街をつくっている、と。

首都圏1都3県でも子どもは減っている。14歳までは8万人減少。75歳以上は25%も増えている。最近外国人は増えていて、15～64歳は15万人増えているが、日本人は60

万人減っているの、追いつかない。中国本土は一人っ子政策をやめたので子供は減らなくなったが、15～64歳の現役世代は減少に転じており、65歳以上は4100万人、31%も増えている。75歳以上は17%増だが、今後さらに増えていく。世界で誰も経験していない、高齢者しか増えていない超巨大国家になる。黒崎で起きていることが、小倉でも福岡でも東京でも中国でも起きている。先に進んでいるのが黒崎なのである。

まちは「花」。「根」は家、「葉」は事業所・作業場・シェアオフィス、「茎」は病院・学校・役所・保育所、「花」はお店(物販・飲食・時間消費)。根・葉・茎なくして花咲かず、公共(茎)と商業(花)だけの「切花」は、はかない。道路や駐車場は「用水路」のようなもので、いくら整備してもそれだけでは何も生まれない。

30年後の黒崎で確実に残り、増えている機能は何でしょう？何が欲しいですか？手っ取り早く一番あったらいいものは高校ではないでしょうか。他の地域と比べて高校生が歩いていない。副都心であるからには絶対に必要なものは教育と病院。この2つが黒崎駅の中から市街地を通して歩いて行けるところにあることが必要。その次はオフィス。黒崎はもともとオフィスが少ない。わざわざ行く人よりも通るかかる人を増やそう。非常に高齢化しているこの地域で、住宅だけ、たまにコンビニがあって、たまにマックスバリュがあってというのは残念。センスのいいお店を出せる人や、買う人、今ほっぽり出始めている、その人たちが生き残るためには、偶然通りかかる人たちを増やすこと。偶然通りかかる人とは、家、小さい事業所、病院、学校(高校)、役所、保育所など。今は、「根」の家があるのと「花」のお店ができているところ、茎と葉がない。黒崎に高校や専門学校を。【講演内容要約】



「苦難を乗り越え、魅力ある新たなまちへ」

北九州市長 北橋 健治



新年あけましておめでとうございます。副都心黒崎開発推進会議の皆様には、黒崎のまちづくりに日頃より熱心に取り組んでいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、本市の社会経済活動も大きな影響を受けました。また、黒崎においては、長年、市民に親しまれてきたクロサキメイトビルが閉鎖されるという、地域にとって大変残念な出来事がありました。

推進会議の皆様には、このような状況下、思うように活動できない中でも、工夫を

凝らしながら、黒崎のまちを盛り上げようと、「黒崎96の日」をはじめとした、様々な活動に取り組んでいただいております。皆様の活動は、持続可能なまちづくりに欠かせないものであり、本市が推進するSDGsの目標達成に大きく寄与するものです。

黒崎地区は、鉄道や路線バスが結節した交通の要衝であり、生活利便施設や医療機関が充実していることから、近年では、マンション建設も進み、地区の居住人口は増加しており、生活環境が整った便利なまちとしての魅力を高めています。

マンション建設をはじめとした民間の新たな開発意欲が活性化し、黒崎のまちは大きく変化してきています。こうした状況を踏まえ、本市では、将来のまちの姿を議論すべく、昨年より市内に検討会議を立ち上げ、黒崎地区のまちづくり構想の策定に取り組んでおります。策定にあたりましては、黒崎に関わる皆様の意見に耳を傾けながら議論を深め、黒崎のまちのさらなる魅力向上に努めてまいります。

推進会議の皆様には、感染防止対策の徹底とともに、今後とも黒崎のまちづくりにご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

コロナに打ち勝つ「街(地域)の免疫力」を黒崎から全国へ!

一般財団法人日本地域開発センター
「地域開発」編集長

大西 達也



あけましておめでとうございます。世界中で新型コロナウイルスの感染拡大が止まらないなか、忘年会・新年会に加えて年末年始の帰省や初詣にも自粛が求められるという誰も経験したことのない新年に戸惑っておられる方も多いのではないのでしょうか。昨年は、東京オリンピック・パラリンピックをはじめ全国各地で多くのイベントや祭りが中止・延期となりましたが、その影響は経済的損失だけでなく、人と人との結びつきの希薄化や伝統文化の継承が危ぶまれる地域も出てきています。

2020年は新しい生活様式 9月は「黒崎96の日マンスリー」!!

黒崎96の日実行委員会 実行委員長 池本 綾女

2020年は発足から5周年を迎える節目の年で初めての日曜日。子どもたちの参画も視野に入れ、次世代に繋いでいく絶好のチャンスでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により先行きの見通しがつかない中、新しい生活様式を踏まえた「黒崎96の日」の模索がはじまりました。

コロナ禍の中でも9月6日は「黒崎のまちを盛り上げていこうと住む人、働く人、みんなの記念日」このコンセプトのもと6月に実行委員会を開催。その時点でユースステーションは「写真展」開催、筑豊電気鉄道は「黒崎96の日応援列車の運行」を行うという嬉しい報告がありました。そして、期間を9月の1ヶ月間に設定。毎年商店街で一斉に乾杯していた乾杯大会は中止。かわりに、9/6日19:06に打上げ花火をあげ、それを合図にステイホームで乾杯をしてもらおうと準備をはじめました。

また、協賛金を募るのは難しいため、一部の企業、商店にのみ協賛品の依頼をしましたが、瞬時に20社より96の品々が集まり、その協賛品を活かし、三密をさげ、人がまちに流れる仕組みとしてスタンプまたはレシート3つ集めて応募いただく「ともがんばろう黒崎応援ラリー」の開催を決定。状況を見ながら、協力店舗の依頼はお盆明けから。短期間でしたが、商店街などの個人店舗はもちろん、黒崎えきマチ1丁目、コムシティのテナント全店舗参加!



岡田宮・春日宮・JR黒崎駅改札口・八幡西、熊手郵便局・ユースステーションまでも協力スポットとして快諾いただき、最終的に協力参加店舗163店舗、申込みは123名にもものばり、オール黒崎の絆の深さを痛感し、とても感動いたしました。

迎えた9月6日は最大級の警戒発令の台風10号による影響で打上げ花火は10日(木)に順延となりましたが、本年も河村酒販さまより乾杯用ビールをご協賛いただき、関係者で旧井筒屋前にて花火を合図にミニ乾杯、くろさき×クロスにて記念撮影を行いました。

これからも「オール黒崎」で苦難を乗り越え、「まちの記念日」を育てていただければ幸甚に存じます。ともがんばろう!黒崎!!

令和2年度地域づくりマネージャー養成塾

黒崎タウンシップ推進委員会 委員長 福山 岳彦

2012年から始まり今年で9年目の講座を開講しています。来年度は10年目、実りあるアウトプットを出して、黒崎のまちづくりに貢献したいと思っています。

養成塾では、次の3つをテーマとしています。

1. 将来のまちづくりを担うマネージャー人材の育成をする。
2. 「新・黒崎まちづくり戦略～黒崎タウンシップ宣言」を検証、地域づくりの方向性を提案し、タウンシップ宣言をバージョンアップする。その中で地域のブランディングを考える。
3. 今後の地域づくりの方向を考え、新たなタウンシップ宣言に盛り込む。

それに加え本年度は、筑豊電鉄を支援するため(仮称)「ちくてつ応援団」の立ち上げを企画しています。交通の結節点としての持続可能な黒崎を目指していければと思います。

(主催) 副都心黒崎開発推進会議
(共催) 八幡西区役所、北九州市立大学大学院マネジメント研究科、北九州商工会議所
(後援) 北九州ひとみらいプレイス、福岡県中小企業団体中央会、(一社)福岡県建設業協会北九州支部



そのようななかで、私が注目しているのが「街(地域)の免疫力」です。免疫力は、病原菌やウイルスなどの異物から体を守る機能であり、その力を高めるために、私たちは十分な栄養を補給する、適度な運動で代謝・体温を上げるなど、様々な努力を行っています。街(地域)についても、コロナ禍だけでなく、人口減少や高齢化、都市機能の郊外流出による空洞化など、数々の「外敵」に晒されています。

街(地域)の「栄養補給」に当たるのが学びの機能であり、黒崎においては、2012年以降毎年開催している「地域づくりマネージャー養成塾」こそが、まちづくりに関わる人々の栄養補給の場となっています。また、「大人の部活・タウンシップスクール」の活動は、街の温度を上げる「適度な運動」です。コロナ禍にもかかわらず、知恵と工夫で実施にこぎつけた「黒崎96の日」はその象徴といえるでしょう。

自ら動き続けることで「免疫力」を高める黒崎の街にウィズコロナ・ポストコロナの時代の地方都市の可能性を見出しつつ、他地域への「ワクチン」的存在となってくれるまちづくり人材の輩出にも大いに期待しています。

シャッターアートについて

黒崎活性化委員会 委員長 田中 大士

明けましておめでとうございます。令和2年初頭メイト破たんという大変ショッキングなニュースが入ってきました。

また昨年は新型コロナウイルスの影響で世の中の生活が大きく変化していきました。売上等苦しい思いをしている企業はたくさんいて、今年はいいい年になればいい文章を書いています。

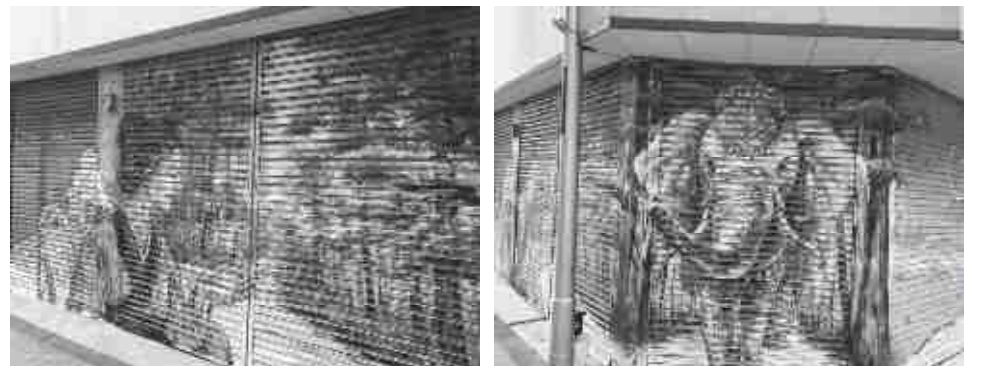
令和元年7月より黒崎商業委員会の委員長を受けていましたが、メイト破たんだけでなく新型コロナウイルス等、黒崎の街の商業は変化せざるを得ない環境になりました。

これを機に商業プラスαの事をやった方がいいと考え、商業委員会改め、黒崎活性化委員会と名前を変えました。

黒崎活性化委員会の会議でシャッターアートプロジェクトを計画しました。理由として、黒崎はシャッター街といわれることがあります。しかし空き店舗率は2割を切る状態があり、昼と夜の町が混合している為、いつ行ってもシャッターが閉まっているというイメージがついてしまいました。

このシャッター街のイメージをプラスに出来ないかと考え、予算の割に見た目にインパクトがあること。毎日目で見て楽しめること。この2点でシャッターアートを実施することになりました。実施にあたっては、アートパフォーマーのカラリズムリサさんが快く引き受けてくださり、12月に完成予定です。

また、これを機に街に来なくなる、楽しくなる街を目指し、シャッターアートを中心に街が美術館になる。をテーマにアート作品を増やしていけたらと思っています。



黒崎駅南北自由通路 愛称【くろさき×クロス】に決定!!

副都心黒崎開発推進会議 幹事長 池本 綾女

2018年3月に延長114mの「黒崎駅南北自由通路」が共用開始されました。これは黒崎副都心地区の活性化に向けて、黒崎駅北側と南側の連携を強化し回遊性を向上させるため、安川電機がロボット村を整備し、JR九州が黒崎駅の駅舎改築を行い、北九州市により通路の整備が行われました。当会では地域の皆様に親しみのある連絡通路となり、さらなる地域活性化に繋げようと、翌年4月の黒崎駅グランドオープンを機に地元自治会区、商業関連、地元企業などの方々々と連携し「黒崎駅南北自由通路愛称検討委員会」を設立、愛称を広く募集しました。その結果、海外を含め、全国各地の幅広い年代(7歳～94歳)から192件もの応募があり、それを参考に愛称を【くろさき×クロス】に決定しました。PR動画を当会ホームページやYouTubeにて公開中です。【くろさき×クロス】=「南北を結ぶ架け橋」は、中央の「×(クロス)」が「掛けると架ける」を意味し、人×文化×歴史×経済×知識が会い、活発に交わる架け橋として、南北はもちろん、より多くの『志民』に利用していただくことで黒崎地区全体の活性化へと広がる相乗効果への想いを込めました。

※志民とはまちへの想い(シビックプライド)や地域を応援したいという明瞭な意思をもった市民です



黒崎のまちづくり

八幡西区長 柴田 憲志

令和3年の始まりにあたり、謹んで新春のお喜びを申し上げます。また副都心黒崎開発推進会議会員の皆様には、黒崎のまちづくりに熱心に取り組んでいただき、感謝申し上げます。

今、黒崎は、コロナ禍に加え、クロサキメイトが約40年の歴史に幕を下ろすなどの逆風にさらされています。しかしその一方で、昨年、曲里の松並木を含む長崎街道が、「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」として「日本遺産」に認定されるという嬉しい話題もありました。皆様に親しまれている長崎街道の歴史的価値や魅力が改めて高く評価されたことを機に、さらに黒崎の活性化につながる取組みを進めていきたいと思っております。

先ずはこの春、八幡西区主催事業である「全力！黒崎」を、黒崎のまちを謎解きしながら歩くイベントに衣替えして実施する予定です。ウィズコロナの時代にあった企画となっておりますので、これまで同様応援をよろしくお願いいたします。

新しいライフスタイルへと変わりつつある現在、黒崎のまちも柔軟に進化していくことが求められています。八幡西区役所としましても、黒崎の明るい未来のため、推進会議の皆様とともに引き続き全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



黒崎リノベーション事業について

北九州市産業経済局 商業・サービス産業政策課長 原田 健二

本市では、黒崎地区において、遊休不動産等を活用した民間主導のリノベーションまちづくりに取り組んでいます。令和元年8月より、地元のまちづくり関係者や学識経験者などの皆様とともに、今後の黒崎におけるリノベーションまちづくりの方向性を検討する勉強会を全4回にわたり実施しました。令和2年2月には、黒崎地区では初めてとなる「リノベーションスクール@黒崎」を開催し、市内外から集まった受講生が黒崎にある遊休不動産を題材に事業プランを練り上げました。最終日の公開プレゼンテーションでは、不動産オーナーに対してアイデアに富んだ提案がなされました。

また、令和2年5月には、これまでシャッター塗装プロジェクトなどの活動を通じてまちづくりに取り組んできた寿通り商店街の新たなプロジェクトとして「株式会社寿百家店」が設立されました。今回、新たに商店街の一角にある築60年以上の物件をテナントとシェアハウスにフルリノベーションすることが発表され、既に物件の一部では工事が始まり、今年2月から随時オープンする予定です。このように黒崎リノベーション事業をきっかけに、黒崎のまちに少しずつ変化がはじまり、更なる賑わいが創出されることが期待されます。



黒崎なりきり宿場夜市

チーム松並木 代表 武智 充

黒崎の曲里の松並木にあります市指定史跡「曲里の松並木」をご存じでしょうか。「長崎街道の名残があるこの松並木を生かして黒崎を盛り上げたい」というような思いを持った、商店街・まちづくり団体・学校・地域住民・地域企業の人々が集い結成した団体が「チーム松並木」です。チーム松並木は一昨年の令和元年9月から毎月一回第2日曜日に松並木の清掃活動を行っています。これは松並木を活用したまちおこしには、まず市民自らが率先して動くことが大事であるというメンバー全員の考えから始まったことです。

松並木を市内外の人々が訪れるための名所とするために、まず始めようとしていることは常設のLEDライトで松並木をライトアップすることです。ライトアップされた松並木を観に来る人が増えればその前後で黒崎の繁華街で食事をする人も増えるに違いありません。

常設のLEDライト以外には、防犯カメラ・トイレ・本物の松並木を背景画とした屋外能舞台・長崎街道の特産品やスイーツ等を販売提供するカフェ・松並木の高さに合わせた眺めの良いゲストハウスなどを設置していく予定です。このような活動を実現していくためには、なによりも地域の方々の理解とご協力が必要です。そこでまずはライトアップされた松並木を多くの方々に見て頂くことで松並木の魅力を認識してもらおうとイベントを開催することになりました。当初開催を3月に予定しておりましたが5月に延期。その5月からまた再度延期し、結局10月10日・11日の2日間で開催しました。イベント名は「黒崎なりきり宿場夜市」です。イベントの主な内容は、50個のLEDで松並木をライトアップすること。そして地域の幼稚園・保育園・小学生の描いた紙灯籠1,500個を設置し灯りをともしたことです。ライトアップされた松並木、紙灯籠ともに美しく幻想的な空間が演出されました。その他狂言・黒田二十四騎・着物ファッションショーも大好評頂き2日間で1,500名の方にご来場頂き無事夜市を終える事ができました。夜市に関しては次回を4月に予定しており今後も年二回程度夜市を開催していきながら、引き続き地域の人々の松並木活用への理解と協力を求めていきたいと考えております。



おいしい黒崎lunch BOXを立ち上げて！

黒崎咲かそっちゃ 伊藤 由紀子

緊急事態宣言が発令される事になった3月末！各飲食店さんが夜営業出来なくなり、お弁当販売に切り替える旨のSNS発信を見てザワザワしたのを覚えています！！「自社で発信しても、黒崎で働くひとたちには届かない！！黒崎にはたくさん働く人がいる！そんな人たちにいち早く情報を届けなければ！！」そんな気持ちに駆られ、その日のうちに、仲間（伊豆、上野）に連絡し、店舗に協力依頼をし、一週間でチラシとサイトを仕上げた、おいしい黒崎lunch box！！超スピーディーに、ボランティアでの配達（武智）チームも立ち上がり、その後デリバリー事業そして店舗前のテラス営業事業へと展開し、お陰様で、住む人、働く人のお役にたつ事が出来ました。今振り返ると、怒涛のコロナ禍突入でした！黒崎のチーム力の強さを感じ、これからもこのチームワークを強みに商店街のお役にたちたいと思っています！！



ヤングサンタについて

一般社団法人 北九州青年経営者会議 第60期会長 堤 一

平素は当会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。去る令和2年12月20日（日）に“第22回目ヤングサンタ”を開催致しました。コロナ禍での開催となりましたが、総勢37名のボランティアのサンタクロースさんと一緒に、児童養護施設6件、病院3件、一般家庭38件にお伺いする事が出来ました。特に、一般家庭への訪問は“全国初！北九州発！”の“Zoomを使った非接触オンラインヤングサンタ”を実施しました。北九州を中心に北は北海道から南は沖縄まで訪問、たくさん子ども達に夢とプレゼントをお届けし、たくさん笑顔に会った事が出来ました。来年も多くの子ども達に夢とプレゼントをお届けできるよう北青会一同頑張ります。



第4回黒崎まちゼミ 開催にあたり

黒崎まちゼミ 実行委員長 田中 寿典

「まちゼミ」は地元の商店主が講師となり、プロならではのサービスや知識を参加者に伝える少人数制のゼミナールです。「個店のファン・顧客づくり」を目的とした事業で、全国400箇所以上の地域で実施されています。

令和2年2月には黒崎びびんホールにて「福岡県まちゼミフォーラム」を開催し、まちゼミを活用した個店の実績アップや地域の活性化を、全国からの参加者と議論しました。

地道ですが、継続することで個店の活性化と共に黒崎の街の活性化にもつながる事業です。

少人数開催でコロナの心配も少なく、令和3年2月には個性的で楽しい40講座以上での「第4回黒崎まちゼミ」を行う予定です。ぜひ参加してみてくださいね。



繁華街魅力づくり推進協議会の取組について

繁華街創生プロジェクト 管理官 松岡 世志之

県警繁華街創生プロジェクトが発足し、黒崎繁華街魅力づくり推進協議会の事務局として、行政や地域の皆様方とともに各種取組を始めて、6年目を迎えました。

昨年は、未曾有の災禍により、黒崎の繁華街関係者にとって非常に厳しい1年となりましたが、「黒崎96の日」のマンスリー開催をはじめ、テイクアウト事業やテラス営業等の工夫を凝らした取組が行われるなど、黒崎の街づくりに携わる方々の熱い思いを改めて実感いたしました。

本年も先行きは不透明ではありますが、各種活動を通じて、暴力団等反社会的勢力を寄せ付けない健全で魅力あふれる黒崎繁華街の実現のために尽力してまいりますので、引き続き、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



副都心黒崎開発推進会議 会員企業トピックス！

安川電機みらい館の取り組み

安川電機みらい館 館長 岡林 千夫

2015年6月のオープン以来、地元の小学校を中心に年間3万人を超える方々にご来館頂いていましたが、2020年度は新型コロナ感染拡大を受けて、年初より安川電機の工場見学の見学中止、並びにみらい館の閉館を余儀なくされました。

2020年9月から、万全の新型コロナ対策を実施した上で学校の見学受け入れを再開しましたところ、ご来館頂いた多くの学校から感謝の言葉を頂いています。

我々も子どもたちの元気な笑顔に多くの力を貰っています。

まだ新型コロナの終息が見えない状況ですが、2021年は新たな取り組みを行い、黒崎の更なる発展に努めていく所存です。

一日も早い新型コロナ感染症の終息と、皆様のご健康をお祈り申し上げます。



地球環境にやさしい循環型社会の実現に貢献

三菱マテリアル株式会社 執行役員 九州工場長 小野 恭一

三菱マテリアル株式会社九州工場黒崎地区は、1955年4月に操業を開始しました。敷地面積は約228,500㎡、従業員数は約100名で、高速道路やトンネル、ダム、高層ビルなど、特殊な用途で使われるセメントを年間約60万t製造しています。

また、下水処理場の汚泥や火力発電所から発生する石炭灰、もともと埋立処分されていた一般ごみを焼却した際に発生する都市ごみ焼却灰などの廃棄物を原料として年間約176千t使用することで、最終ごみ処分場の延命や天然資源の使用量低減となっています。

これからも当社は「人と社会と地球のために」という企業理念のもと、循環型社会の実現に貢献してまいります。



「黒崎」から世界の Krosaki を目指しています！

黒崎播磨株式会社 総務グループ長 幸野 陽慈

今回、貴重な紙面を割っていただき、皆様に弊社(黒崎播磨株式会社)の紹介をさせていただきます。弊社は1919年に黒崎の東浜町で創業を開始し、昨年100周年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様方の長きに亘るご支援のおかげであり、あらためて感謝申し上げます。弊社はこれまで100年間、鉄鋼やガラス、セメントなど製造する上でかかせない「耐火物」を造ってきましたが、その事業は国内にとどまらず、海外(主にスペイン、オランダ、インド、中国、アメリカ)にも拠点をおいて活動しており、「黒崎」から世界を目指しております。現在のグループ全体の売上高の約4割近くは海外へ販売したものです。また、耐火物以外にも半導体や医療分野、意外なところでは宇宙産業でも弊社の造るセラミックスが使用されており、新たな分野の開拓も行っております。今後も黒崎の方々と共に「黒崎」の名前を世界のブランドにしたいと考えております。弊社についてご興味を持っていただいた方は是非一度、弊社ホームページ(<https://www.krosaki.co.jp/>)をご覧ください。



仮称「ちくてつ応援団」について

株式会社 福山組 代表取締役 福山 岳彦

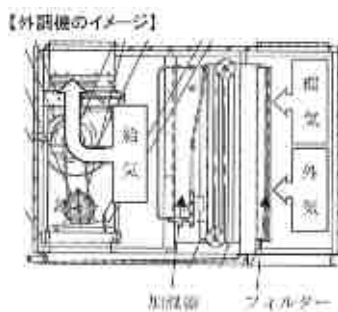
黒崎を起点に北九州市、中間市を経て直方市に至る3つの市をつなぐ筑豊電気鉄道(ちくてつ)は黒崎の魅力のひとつである「交通の結節点」として重要な役割を果たしてきましたが、近年の少子化による通学利用者減少や沿線人口減少等の影響もあり、乗客減に歯止めがかからず、昨年度最盛期の5分の1ほどに減り、更に新型コロナの影響が追い打ちをかけて、非常に厳しい状況にあります。そこで「ちくてつ」の魅力に触れ応援するために、仮称「ちくてつ応援団」を企画しています。一昨年にやったような列車を貸切り、黒崎から終点の筑豊直方駅までを往復し、車内で交流をはかるような事業は、コロナ禍が落ち着いたからになります。今の時代にあった応援を企画していきたいと思っております。多くの方の応援をお願いいたします。



コロナ禍でも頑張るコムシティ

株式会社 九電工 八幡営業所 コムシティ防災センター長 青山 尚人

JR黒崎駅に隣接するコムシティは、八幡西区役所をはじめホテルや乳幼児向け遊戯施設、飲食店から、急患センター等々が入居し、バスや路面電車の停留所も備えています。北九州副都心の中にあって、地下1階・地上12階建てのコムシティは正に黒崎の顔であると自負しています。1日平均、約一万人の方々が訪れる複合施設であるコムシティには、建物の構造上、換気用の窓が少なく自然の風が通り抜けるにはかなり難しいものがあります。コロナ禍ですます換気的重要性が見直されている中、コムシティが実施している空気環境対策をご紹介します。コムシティでは、35基の外調機が各部屋の給気口・排気口を通して館内の空気を循環させています。これは、建物内を循環してきた空気(環気)と新鮮な外の空気(外気)を混ぜあわせた後、フィルターで微小な異物を取り除き、加湿器で適度な湿度を含んだ空気(給気)にして、再び館内を循環させるシステムです。今は、九電工が昼夜を問わず地下一階の防災センターに常駐し、各外調機の稼働時間を調整することにより、厚生労働省が定める基準を上回るペースで館内の空気を入れ替わる様、設備運用を展開しています。通常点検を毎日行い、毎月一回フィルターを洗浄することで、不具合の早期発見に心掛け、より快適な空気環境の維持に取り組んでいます。併せて、2か月に一度空気環境測定を実施しています。一酸化炭素・二酸化炭素・浮遊粉塵の含有量を機械的に測定し、快適な空気環境が確保されていることを見守っています。小さなお子様やご高齢の方を含み、大勢の方々が集うコムシティ。ご来館される皆様が安心・安全であるために、また行きたいと思っただけの様な優しい場所であるために、コムシティは今日もきれいな空気で皆様のご来館をお待ちしています。



委員会インフォメーション

- 組織活性化委員会 委員長：向井 明
新型コロナウイルスの影響で、総会は書面採決、黒崎96の日の乾杯大会は中止し打上げ花火とスタンプラリーに変更、会員親睦会としての「ちくてつ」利用と新年会は中止いたしました。コロナ禍での各会議の開催時期と方法を模索中です。今年は今一度、「副都心黒崎開発推進会議」発足時の原点を顧みて、「どうあるべきか?、何をすべきか?」を各機関、諸団体、各委員会と調整いたします。
- 黒崎タウンシップ推進委員会 委員長：福山 岳彦
タウンシップ推進委員会では、1. 地域づくりマネージャー養成塾の企画運営、2. 2015年に発表した「新・黒崎まちづくり戦略～黒崎タウンシップ宣言」の検証、3. 仮称「ちくてつ応援団」の企画を行っています。コロナ禍の中、少しづつ進めていければと思っています。
- 黒崎活性化委員会 委員長：田中 大士
黒崎地区商業連携推進委員会から名称が変わりました。黒崎の活性化のため更に力を入れ、「シャッターアート」を始めとした魅力的な仕掛けづくりに取り組んで参ります。
- 広報委員会 委員長：河野 俊毅
この度、前任の岡林委員長から職務を引き継ぎ、委員長をさせていただくことになりました河野です。黒崎の活性化のお役に立つべく、副都心黒崎開発推進会議の活動を活発に発信するためホームページを充実させていきます。また、2022年の副都心黒崎開発推進会議の設立30周年記念に向けて、さらに活動を深化させていただきますので、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

☆ホームページのご案内☆

当会と黒崎のまちの最新情報は、こちらをぜひご覧ください!

<https://k-fk.jimdo.com/>



副都心黒崎開発推進会議

令和2年度 定例総会(書面表決)のご報告

毎年7月にホテルにて定例総会を開催していましたが、令和2年度の総会は新型コロナウイルス感染防止の観点より、7月28日付けの書面表決と致しました(写真は令和2年1月20日開催の令和2年度新春の会より)。令和3年度定例総会は例年通り7月下旬に開催予定です。開催の折にはぜひご参加ください。

(定例総会) 定例総会に付議された案件は

1 議事

議案第1号	令和元年度	事業報告
議案第2号	令和元年度	収支決算及び監査報告
議案第3号	令和2年度	事業計画(案)
議案第4号	令和2年度	収支予算(案)



議題第5号 役員改選(案)
議題第6号 会則改正(案) ※事務局の移転にともなう住所変更
以上6議案。書面送付先158件。質問、意義、反対意見などの申し立ては無し。いずれも会員みなさまのご賛同をいただき可決いたしました。

2 報告事項

- 1、南北自由通路 愛称決定
- 2、事務局移転について
- 3、黒崎96「くろ」の日
それぞれ詳細な書面を作成し同封。文章にて報告いたしました。



【御礼】書面表決にもかかわらず、例年とかわらず本総会に協賛広告をいただいた方々に心より感謝いたします。この紙面をおかりして心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。